

出来る時に、
出来る事を、
出来る人がヤル

燦燦ニューズレター

発行
上智大学金祝燦燦会
〒102-8554 千代田区紀尾井町 7-1
上智大学ソフィア会事務局気付

10年目を迎え新しい執行部が誕生しました

執行部の若返りが叫ばれて久しいのですが、これまで燦燦会を築き上げていただいた濱口吉右衛門会長（60経経）が退任され、2022年11月より、1968 年卒（理物）の畔柳文雄副会長にバトンタッチされることになりました。併せて、2名の副会長、そして、事務局長と事務局長代理が選任され、執行部は6名体制となります。同時に、「役員等」の一部が変更となります。濱口様には、顧問として大所高所から燦燦会を見守っていただくことになります。

会長
畔柳文雄、68 理物副会長
石川雅弥、65 外英副会長
相川美子、67 外独事務局長
小川元、67 外露事務局長代理
佐藤洋子、70 外英監事
飯塚忠一、66 外独

会長就任にあたって - 畔柳文雄

このたび、濱口前会長の後を継いで、上智大学金祝燦燦会の会長に就任いたしました。皆様のご協力を得て、燦燦会の一層の発展のために微力ながら務めて参ります。よろしくお願い致します。就任に当たり三つのテーマを掲げたいと思います。

「留学生のために、留学生と共に」という目的を見失わない燦燦会

10年前に燦燦会が発足した時の原点である、「留学生のために、留学生と共に」という思いは、私たちが常に念頭に置いておかねばならないことです。会の活動が、多岐にわたり、また会員数が増えるにつれて、組織としての燦燦会をどう運営していくか、会員同士をどう結束していくかと言ったことが大きな課題となり、ややもするとそれが目的化してしまいかねません。燦燦会の活動の目的はあくまで「留学生のために、留学生と共に」であることを忘れずにいたいものです。

発信する燦燦会

燦燦会は近年学内でもその存在を認められる団体になりつつあります。ただ、卒後50年の金祝が視野に入り始める年齢層の卒業生に、燦燦会の存在が知られているかと言うと、それは殆どゼロの状況です。それを何とか改善して、「金祝を迎えたらぜひ入会しよう」と思ってくれるようにするには、燦燦会の内外へ向けての広報活動が何より大切です。広報のターゲットを今より広げるためのメディアの拡充と、そして何よりも燦燦会の活動の活性化を前提としたコンテンツの充実が求められます。

会員の皆様
会長退任にあたって

長い間ご一緒させていただき心から感謝申し上げます。この十年間ソフィア会、学校、学院の皆様のおかげでいただき、お蔭様で今日を迎えることができました。燦燦会のお神輿を担ぐという貴重な体験をさせて頂いた事は、大変楽しい思い出となりました。一方でお互いに無理がでない年齢の集まりなので、亡くなられた担ぎ手のお別れは大変つらいものでした。健康第一と考え、出来る時に、出来る事を、出来る人がヤル！

このモットーは、年を重ねた我々にとりて最適なものでした。「留学生のために、留学生と共に」のスローガンを掲げ、彼らに寄り添って彼らの夢を私たちの夢としてその実現を願って、共に歩んだ事は私の喜びとなりました。この十一月からスタートする新体制は、大変強力なチームだと確信しています。私はこれから、顧問という立場で関わらせて頂くこととなります。心からの感謝を込めて！

令和四年十月 濱口吉右衛門

女性会員が力を発揮する燦燦会

私たちが卒業した母校は、その後、年毎に女子学生が増え、現在では在学生の過半を占めるまでになっています。社会で活躍する女性ソフィアンも多く、優れた女性を輩出する大学として評価も高まっています。ソフィア会でも、副会長をはじめ、主要なポストに女性が就いて、目覚ましい活躍をしています。燦燦会においても、このほど副会長の一人と事務局長代理、さらに二つの担当役員に女性を起用しました。女性会員の活躍の場を広げ、会の運営にできるだけ多くの女性会員に加わって頂くよう心掛けて参ります。

役員の皆様、顧問の皆様、そして何より多くの会員の皆様とともに、金祝を経た卒業生と母校を繋ぐ拠り所として、金祝燦燦会を大いに盛り上げて参りましょう。

理事長、学長、ソフィア会会長に燦燦会について語っていただきました

下記は、ソフィア会のホームページに掲載された記念誌「10年のあゆみ」からの引用です。全文は下記URLで閲覧できます [上智大学金祝燦燦会 10年のあゆみ 2012年～2022年 \(sophiakai.gr.jp\)](http://sophiakai.gr.jp)

○ 上智学院 佐久間勤理事長

金祝燦燦会会員の江澤健二先生が英語の句をふさわしく和訳されるので、英語の詩がまさしく俳句になるという奇跡を、毎回、目の当たりにすることができました。(俳句コンテストは)留学生と日本文化、そして上智大学との橋渡しとなる実に意義深い活動です。(中略)金祝燦燦会で留学生に提供している俳句や茶の湯、スピーチコンテストなど異文化の実体験はきっと、学生たちの心の支えになっていることと思います。(中略)金祝の後にこそ母校のために貢献しようとしておられる金祝燦燦会の皆様の母校愛は、後輩へのよき模範です。この活動がこれからも活発に続けられますように願っています。

○ 上智大学 曄道佳明学長

ソフィア・ファミリーの様々な活動の中でも、金祝燦燦会の活動は、いかにも上智大学らしく、いかにも叡智の香りが漂い、いかにもソフィアの国際性の象徴的なものの一つであると思うからです。(中略)私は、この節目の年にあたり、二つの観点から皆様へ謝意をお伝えしたいと思います。第一に、私は金祝燦燦会の存在そのものに御礼をお伝えしたいのです。(中略)50年以上にわたり、上智大学に学び、そして見守って下さる方々で構成される金祝燦燦会のご活動は、まさに圧倒的存在感として私たちに伝わって来ているのです。(中略)第二に、国際性を謳う本学において、ソフィア・ブランドにおける象徴的な留学生支援を行なっている点です。卒業生により自身の修学継続の支援を受けられるという環境は、単に経済的な負担の軽減にとどまらず、この社会の中で「他者のために、他者と共に」を具現化するお取り組みとして、大きなメッセージを留学生に発して頂いています。この支援の存在自体が、彼らの日本における“経験”として心に刻み込まれることでしょう。また、俳句コンテスト、日本語スピーチコンテスト、浴衣デーでの浴衣のご提供など、日本に学び、日本を学ぶことを、留学生が再認識する機会を提供いただいていることも、上智大学のキャンパスに大いなる彩りを与えてくださっています。おそらく、それらのイベントに参加した留学生達には、日本で学ぶことの達成感の上に、日本を学び、理解する新たな視野、視点が醸成されることと思います。留学生が日本を学ぶ機会は種々あるように思いますが、この手作りの機会提供は、まさに金祝燦燦会の皆様の豊富なご経験や造詣、そして上智で学ぶ意義をご経験から考えて頂いている活動によってのみ成り立つものでしょう。

○ ソフィア会会長 鳥居正男氏

ソフィア会は会則で「会員相互の親睦」と「母校の発展に貢献」の2つを活動指針として掲げています。前者の「会員相互の親睦」もちろん大切なソフィア会のテーマですが、燦燦会は特に母校の発展に力を入れて活動されていることに改めて敬意を表する次第です。(中略)金祝燦燦会が「母校の発展に貢献」することを掲げ、多様な活動をされていることは多くの人が認識しているところです。特に、上智大学の外国人留学生の支援・交流を活動の中心に置いて当初から取り組まれてきている留学生による日本語スピーチコンテストや俳句コンテストは、上智大学そしてソフィア会としてもきわめて重要なイベントになりました。

俳句コンテスト

燦燦会主催の留学生による俳句コンテストがすっかり定着し、第10回俳句コンテスト2022春/夏の英語俳句の最優秀賞作品はフランス出身のソム・ナタナエルシアン・ザルマンさんの、

It's samara season Butterflies of my childhood At summer's dusk

江澤健二さん(60 文英)による和訳 果皮に翅子に蝶々の夏の夕

でした。江澤さんの和訳にもご注目ください。日本語俳句の最優秀賞はベトナム出身のグエン・ティ・ヴァン・タオさんが獲得しました。授賞式後に選者がタオさんに句の感想を伝えたところ、彼女は見事な日本語で返事をくれました。

タオさん

あたらしい かんじおぼえる なつのそら



何も知らずにこの句を読んだら、この句はおそらく小学校の一年生か二年生が作った俳句だと思うでしょう。でもそれが、留学生の句だと分かった時、読者の胸に熱いものがこみ上げてきます。

日本へ来て、日本語を一生懸命勉強する作者の気持ちがよくわかる句です。中でも簡単な漢字を覚えることでしょう。読めて書けるようにならなければいけない漢字は 2,000 近くもあるのですからね。漢字の勉強に疲れてふと目を窓の外にやると、真っ青な夏の空が広がっていた。その空を大きなノートに見立てて作者は今覚えたばかりの字を書いてみたかもしれません。あるいは故郷の国で青い空の下で遊んだ子供のころを思い出したかもしれません。漢字の一字とと言う小さなものと、窓の外の広い空の対比が印象的です。また、難しいだとか、疲れたとかの説明を一切加えなかったことも正解でした。そこからは、これからも頑張るぞという作者の強い意志が感じ取れます。そして、もっとも印象的な事は、この作者なら、「新しい」とか「夏」だとか「空」だとかの漢字は当然知っているのに、漢字を勉強していることを強調するために、あえて十七文字を全てひらがなで書いたことがこの句の説得力を大いに増すことに繋がりました。難しいことは一切言わず、平易な言葉で読む人の共感を得る。俳句のお手本のような一句です。審査に当たった10人の選者のほぼ全員がこの句を採りました。最優秀作品に相応しい一句です。

Dear Fumio Kuroyanagi-san,

お優しいお言葉に感動し、涙が出ました。私の俳句にコメントをいただき、本当にありがとうございました。俳句の意味をより深く解釈していただき、より感動的な作品に仕上がりました。この度は、多大なるご評価を頂戴し、誠に感謝しております。私の日本語がまだ流暢でないのは申し訳ないですが、励まされて一生懸命勉強しました。

Sincerely,

Thao Nguyen

(原文のまま)

2022 年勉学奨励金授与式



今年の勉学奨励金授与式は昨年に続き Zoom による開催となり、上智学院、大学、ソフィア会からの招待者を含め総勢 34 名の参加となりました。今年は燦燦会の創立 10 周年を記念して、12 ケ国からの12名の留学生が受賞し、それぞれに 6 万円の奨励金(目録)が授与されました。応募者は過去最多の49名でした。式は校歌斉唱に始まり、濱口会長の言葉に続き、受賞者一人ずつが紹介され、会長から目録が読み上げられ、画面上での授与となりました。その後、受賞者一人ひとりからお礼の言葉が述べられ記念撮影をし、最後に、石川会長代理により、事前に対象者から送られてきていたお礼状の抜粋が紹介され、授賞式が終了しました。なお、勉学奨励金は、皆様にご寄付いただいた一口千円募金を原資として上智学院により贈呈されるものです。

10年のあゆみ

2012年～2022年



上智大学金祝燦燦会
留學生のみなさん、留學生の先生、
山本さん、山本さん、山本さん

Sophia Goldenagere Club
We thank you, friends, for your support.
L'Esprit du club, c'est la vie, c'est la vie, c'est la vie.

10年間のあゆみ

「10年のあゆみ」を発行しました

金祝燦燦会創立10周年を記念して5月に24ページの「10年のあゆみ」を発行し、海外を含め会員の皆様全員に送付しました。ソフィア会のホームページではデジタルブックで閲覧できます
上智大学金祝燦燦会 10年のあゆみ 2012年～2022年 (sophiakai.gr.jp)。是非、デジタルブックの便利さと楽しさを試してみてください。

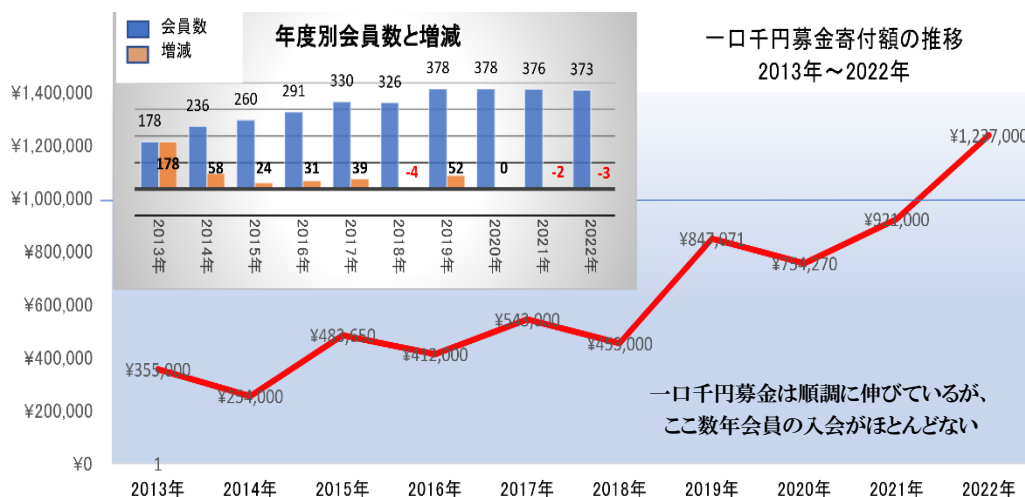
一口千円募金と留学生夢支援募金

一口千円募金は、燦燦会が主体となって会員に呼びかけ、海外からの留学生を支援するための募金活動です。その寄付金は学院によって管理され、勉学奨励金、日本語スピーチコンテストの賞金、俳句コンテストの賞金、茶の湯にふれる会やその他の留学生支援活動のために必要な費用として使用されます。一方、新しく設立された「留学生夢支援募金」は、燦燦会ではなく、上智学院が主体となって燦燦会の会員のみならず広くソフィア会会員、在学生の父母、教職員さらには企業等の法人および団体に拡大して寄付をお願いするものです。そして、その資金は、留学生が上智大学を卒業した後、大学で学んだ知見をそれぞれの母国あるいは日本でどのように活かして実践していくかの「夢」を懸賞論文の形で語ってもらい、優秀な論文に対する賞金として使用されます。その資金管理は学院が行います。第一回目の今年は9件の応募があり、予備選考の結果4名が最終候補者として残り、11月にはいよいよ優勝者が決定されます。表彰式・論文発表会は、燦燦会の会員、ソフィア会会員、一般学生、留学生、その他を招いて公開で行われる予定です。

会員募集

現在の会員数は約400名です。実際に登録されている会員は450名ですが、43名の方が物故者となり、34名が終活その他の理由

により連絡は不要とのことで、実質的な会員数は373名となっています。燦燦会の運営に必要な資金は終身会費、懇親会等の参加費や寄付によりますが、ほとんどが入会時に払っていただく入会金(終身会費)によって賄われているのが実態です。そして、会の健全な運営には毎年40名程度に新しく入会していただく必要があります。従来は入会のお願いを、金祝の式典後に開催される祝賀会で行い会員を募っていたのですが、残念ながら、コロナ禍により1970年、71年、72年卒の皆様は祝賀会が開催できない状況が続いており、結果として上記のグラフにありますように、ここ数年は新しい会員の入会がほとんどなく、正味の会員数も減少傾向です。このことは、燦燦会の運営資金が集まらないことを意味します。そこで、執行部では会員の方に特別なお願いをしたり、9月に松本で開催された第11回地域ソフィア会全国大会や10月に開催された秋季全国代議員会に参加して対象者を探して個々に入会のお願いをしたり、また、何とか祝賀会の実行委員長の連絡先を見つけたりしながら会員の獲得に努めています。入会していただくのは新しい卒年に限らず金祝を終えたソフィアンであればどなたでも対象となりますので、会員の皆様には改めてまだ入会されていないクラスメート、部活仲間、ゼミ仲間等へ声掛けをお願いします。



一口千円募金は順調に伸びているが、ここ数年会員の入会がほとんどない

編集後記：濱口会長、10年間ありがとうございました。これからもご指導いただきながら、燦燦会を上智学院、上智大学、そして、ソフィア会が誇れるような団体にしていきたいと思ひます。畔柳新会長の下、「若い」執行部がその重責を担うことになります。執行部の刷新に加え、会務を遂行する「チーム」の役員も一部交代となります。会員の皆様のご協力により一口千円募金は順調な伸びを示しており、継続して留学生を支援することが出来ています。しかし、会の健全な運営のためには新しい会員を増やすことが喫緊の課題となっています。留学生の夢を叶え、そして、留学生夢支援募金が成功するために学院、大学と協働しながら会を盛り上げ、母校に貢献したいとの思ひです。論文の発表が楽しみです。それにしても、留学生と接していると、タウさんの返信に見られますように彼等彼女等の能力の高さには驚かされます。それぞれの夢がかなえられることを願っています。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(MI)

留学生の言葉

留学生 OB の安星さんは中国出身で、2017 年に学長奨励賞を受賞し、現役の学生時代には積極的に燦燦会のイベントをサポートしてくれました。ご記憶の方も多いと思います。彼は今回の寄稿に当たって、「書きながら、思いましたが、皆さんに会い、人生が変わったと思いました」と言っています。大変胸に響く言葉です。



<金祝燦燦会>の方々との出会いの思い

安星(アンセイ)、2018 年地球環境学科卒、中華人民共和国 (学生時代の写真です)

2014 年 5 月のことでした。上智大学入学してから 1 ヶ月が経ち、大学生活に慣れてきた頃、2 号館入り口の隣の掲示板に貼ってある「外国人留学生スピーチコンテスト」のポスターを発見しました。ポスターの写真を撮って、図書館に行くと、申し込みのメールを送ったこのシンプルな行動が、大学生活が楽しくなった決定的なことだと今は確信しています。

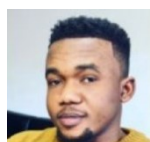
スピーチコンテスト当日、学校にいく前までは、イベントを楽しもうと思っていましたが、学校に着いた途端、特に金祝燦燦会の方々とお話をしたとき、いい意味でのショックを受けました。先輩方々の母校への思いと、在校生への支援の思い、そしてその思いを形にしていく行動力など、1 人の外国人留学生からすると大変新しい刺激でした。大学授業では勉強できない、感じられないことを ASF のその日に感じる事ができました。

大学生活は授業だけではなく、在校生同士、卒業された先輩方々、大学職員の方々、在校生を支えている保護者の方々との繋がりもとても大事で、皆さんの上智大学への思いが、この大学をさらに素敵な大学にしていくのだと気づくようになりました。

一年後(2015 年)、金祝燦燦会の方々との再会した時は、皆さんの支えのおかげで、上智大学中国留学生会を運営する側となり、皆さんの恩恵を受けながら、少しずつ大学側にお役に立てる側にもなることができました。微力でありながら、少しでも何らかの形で貢献できればという思いはまさに、金祝燦燦会の方々から教えていただき、それを後輩の留学生にも伝えられるようになりました。

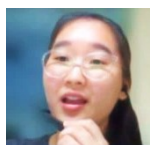
「他者のために、他者とともに」、大学に入ってから、ようやくその意味がわかるようになり、金祝燦燦会の方々は、皆さんの行動で私を含む多くの留学生にその真意を表していると思います。金祝燦燦会の方々のおかげで、日本で素敵な大学生活を過ごすことができたと思えます。ありがとうございます。

2022年の勉学奨励金は会の創立 10 周年を記念して、5大陸全てをカバーする 12 カ国から 12 名の留学生が受賞し、それぞれに6万円が授与されました。今年も、受賞者からは心のこもった礼状が送られてきました。以下、礼状からの抜粋です。



AGWATA CHUKWUEBUKA、地球環境学専攻 2 年、ナイジェリア連邦共和国

I am so honored to have been selected for this award. Thanks to your support, I will now be able to carry out my research without any barrier financially. My research is focused on printed circuit board recycling process and its environmental impact... This scholarship has given me a boost in my confidence to pursue a career in a field that I think I will be successful in. I may not ever be able to say or show this enough to you, but thank you so much for your kindness.



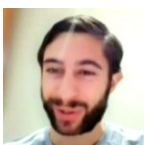
BAT-ERDENE LKHAGVADULAM、国際教養学科 1 年、モンゴル国

親が学費を支払ってくれており、それ以上負担をかけたくないので、自分のアルバイト代で生活費に使っています。そんな中で、この奨学金に採用していただいたこと、非常にありがたく、感謝の気持ちで胸がいっぱいです。今学期は数週間で終わりますが、支援いただきました奨学金は、来学期の学費の一部として使用させていただきます。現在は専攻を決めていませんが、将来はビジネス業界で活躍したいから国際経営・経済の専門に興味を持っています。



ZHANG YUCHEN、グローバル社会専攻 2 年、中華人民共和国

I am sincerely honored to have been selected as the recipient of the Kinshuku Encouragement Award 2022. I was thrilled to learn of my selection for this honor, and I am deeply appreciative of your support. Thank you for your generosity, which has allowed me to concentrate more of my time on studying... I promise you I will study very hard and eventually give back to the society. I hope one day I will be able to help students achieve their goals just as you have helped me.



DE BONO JORDAN、グローバル社会専攻 1 年、マルタ共和国

I am currently pursuing a master's degree in International Business and Development Studies... A sincere thanks once again goes to the alumni supporting this scholarship initiative. Indeed, I dream of the day where my studies will bear fruit, my career takes off, and I will be able to continue this virtuous cycle of student support by donating back to the association in order to support future Sophians with their studies.



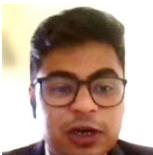
RIVERA ANDRES LEONARDO、グローバル社会専攻 1 年、コロンビア共和国

I would like to emphasize that this award and my motivation to study in the country I have always dreamed of, are driving forces that push me to guide this stage of my life with discipline. Therefore, I present in this letter my most sincere gratitude to the foundation and the university for promoting the dreams of those of us who want to make this world a better place.



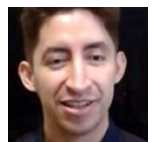
AGUILAR ANNETTE MICHELLE、グローバル社会専攻 1 年、アメリカ合衆国

Firstly, it goes without saying that I am beyond grateful for being selected to be a recipient of the Kinshuku Encouragement Award. Students, like myself, could not be here if it were not for your generous donations and commitment to Sophia University... I am truly thankful for this scholarship. I plan on using the award towards my thesis research in regards of transportation costs for my field work... and with the generous award given to me, I will be able to conduct valuable and meaningful ethnographic fieldwork that will allow me to produce a successful thesis.



SHAH JATAN MAYANK、理工学専攻 1 年、インド

I am currently a 1st-year master's student at the Green Science and Engineering Division of the Graduate School of Science and Technology... I am honored to be one of the recipients of the 'Sophia University Kinshuku Encouragement Award' and I would like to take this opportunity to thank the Kinshuku-Sansankai network for their generous donations to help students like me continue their studies to achieve our personal goals while contributing to the society.



GARCIA VERDEZOTO LUIS SEBASTIAN、地球環境学専攻 2 年、エクアドル共和国

It is a privilege for me to be selected as a recipient of this scholarship. So, I am writing this letter in order to express my deepest appreciation for your donation... I am from Ecuador, and I came to Japan 3 months ago to start my second year in the master's program of environmental studies. In my research I focus on developing a computer model to assess the effect of mercury pollution on the biodiversity of the Amazon basin.



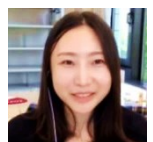
NYUYDZI CLINTON ACHU、地球環境学専攻 2 年、カメルーン共和国

I would like to express my sincere gratitude for your outstanding financial support. You are an amazing team who diligently working hard to ensure students carry out their studies in a pleasant condition. This financial support is of great help to me as a foreign student in Japan. Your dedication to support international students in Japan is resulting to increase welfare of foreign students in Japan. We expect to study hard and produce excellent results in our studies.



MOHAMMAD NUR、地球環境学専攻 1 年、バングラデシュ人民共和国

It is a great honor to receive your Sophia University Kinshuku Encouragement Award 2022 Scholarship which will help fund the expenses of my education in Japan. I am most grateful for your belief and support, and I would like to thank you for choosing me.... Receiving this scholarship will allow me to continue following my dreams. Your earnest investment in my future goals will not be forgotten. Thanks again for your generous and thoughtful gift.



PARK JEEHYUN、グローバル社会専攻 3 年、大韓民国

I am a PhD candidate in Global Studies, and my research is based on Public Policy and Development Studies... After graduation, I will continue my research as a postdoctoral researcher. Thanks to you, I am one step closer to that goal with your kind support. By awarding me the Kinshuku Encouragement scholarship, you have lightened my financial burden, which allows me to focus more on the most important aspect of school: learning and researching. Your generosity has inspired me to help others and give back to the community. I hope one day I will be able to help students achieve their goals just as you have helped me.



ASIS EDWARD LUGO、グローバル社会専攻 3 年、フィリピン共和国

My research interests involve migration, mental health, and global health. Specifically, I am focusing my research on migrant care workers and their experience with dementia care. My research aims to explore the facilitators and barriers to providing care among people living with dementia in long-term care facilities in Japan... I would need to extend my Ph.D. research to conduct my study further. I am very grateful to be chosen as one of the recipients of the Kinshuku Encouragement award. I will use the award to help pay my tuition fee for the next semester. Again, thank you very much for your financial support!